久留米市美術館　2023年度展覧会のご案内

コレクションing4　野見山暁治の見た100年

4月22日（土）— 6月4日（日）

久留米市美術館のコレクション展第4弾。現在の飯塚市に生まれ、100歳を超えてもなお、東京と福岡を拠点に精力的な制作活動を続ける野見山暁治(1920-)が見つめてきた100年にわたる日本洋画の展開をたどります。
野見山の作品を軸に関連作家の作品とあわせ約90点を展示。

野見山暁治《顔》1975年　久留米市美術館

アーツ・アンド・クラフツとデザイン
ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで

6月17日（土）— 8月17日（木）

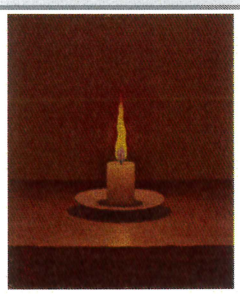
19世紀後半イギリスで興ったデザイン運動「アーツ・アンド・クラフツ」は画家や建築家、陶芸家、職人も巻き込み、ヨーロッパ、アメリカ、日本にまで広がりました。
モリスからアメリカの建築家フランク・ロイド・ライトにいたるまでの約170点で、この運動の展開を紹介します。

ウイリアム・モリス《メドウェイ》1885年

顕神の夢

8月26日（土）— 10月15日（日）

「顕神の夢」とは、人知を超え霊的な体験を創作のモチベーションとする表現者たちの心情を仮に名付けたものです。自らの内に宿る神仏や魔を作品として定着させようとするなど彼ら表現者の作品をそれにふさわしい尺度、いわば「霊性の尺度」から見直すことで作品のもつ豊かな力を再発見・再認識することを試みます。

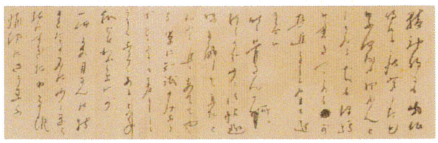


髙島野十郎《蠟燭》戦後期　久留米市美術館

芥川龍之介と美の世界　二人の先達ー夏目漱石、菅虎雄

10月28日（土）— 2024年1月28日（日）

芥川龍之介(1892-1927)の文学は美術と深く関わるという点で夏目漱石(1867-1916)と共通します。
本展では芥川と美術の関わりを見ていくことで、芥川の文学世界と芥川の目を通した美術世界を紹介するとともに、芥川が師と仰いだ漱石、漱石の親友であり、書家として漱石と芥川から一目置かれる存在でもあった菅虎雄(1864-1943)、その三人の交流関係にも注目します。



芥川龍之介《松岡譲宛書簡》1916年12月17日
新宿区立漱石山房記念館

ちくごist　尾花成春

2024年2月10日（土）— 4月14日（日）

青木繁や坂本繁二郎らを育んだ久留米および筑後の地にゆかりのある作家を紹介する「ちくごist」シリーズの第1回。現在のうきは市に生まれた尾花成春(1926-2016)は、前衛美術団体「九州派」での活躍や「筑後川」のシリーズで知られます。本展では、残された資料も加え、筑後で制作することにこだわった尾花の全貌を紹介します。

尾花成春《黄色い風景》1958年　久留米市美術館

※都合により会期等変更になる場合がありますので予めご了承ください。

※入場料など詳細は久留米市美術館公式ホームページにて随時お知らせします。